

小学校第6学年 学級活動指導案

平成 29 年 10 月 19 日 (木) 5 校時

〇〇小学校 第6学年

指導者 T 1 学級担任 学級担任

T 2 栄養教諭/学校栄養職員

1 題材 食品ロスを減らす方法を考えよう

内容 (2) キ 食育の観点から踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材設定の理由

中央環境審議会意見具申(平成 26 年 10 月)における「今後の食品リサイクル制度のあり方について」によれば、学校給食調理施設は食品廃棄物等を継続的に発生させている主体の一つであり、食品ロス削減等の取組を実施するとともに調理くずや食べ残し等食品残渣の再生利用を推進することが必要であるとされた。

平成 26 年度における日本の食品ロス量(本来食べられるにもかかわらず廃棄される食品量)は年間 621 万トンに達している。一方で、国内自給率(重量ベース)は 40 %に満たず、多くの食料を国外からの輸入に依存している。食料の半数以上を海外の生産に依存しながらすぐに捨ててしまう食品ロスの現象は、経済的な損失だけではなく資源やエネルギーを浪費することによる環境負担を増やしたり「もったいない」に代表されるような食べ物を大切にしたい心の育成を阻害したりすると考えられ、社会への影響が大きい。

6 年生児童はこれまでに、4 年時での上勝町ゼロウェイストについての調べ学習や 5 年時での米づくり体験等を通して、食べ物を大切にしたいという気持ちが育まれている。生活習慣アンケートによると、食べ物を残すことについては「よくない」と全児童が回答している。その一方、本校 6 年生児童はいずれも何らかの苦手な食べ物があり、このうち 6 割の児童は「学校給食に苦手な食べ物があっても残さず食べる」、残りの児童は「少し食べる」と回答している。給食の残食を見ても、平均して米飯を中心に 1 ～ 2 人分程度残されており、食べ物を大切にしたい気持ちはあっても、食べきれずに残してしまう実態がある。

本町の大きな特色は「ごみを出さない・再利用化・再資源化」という理念に基づいた、自然環境にかかる負担をできるだけ取り除くゼロウェイストである。食品ロス削減はゼロウェイストと共通した考えの取組であることを児童に理解させ、子どもたちが学校・家庭・地域で学んできたゼロウェイストを踏まえて自分たちに実現可能な食品ロス削減の方法を探らせたい。

3 題材の目標

自分たちの食品ロスを見直し、環境にやさしい食生活を進めていくことの大切さについて考える。

4 題材の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

5 食育の視点

食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。(感謝の心)

各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。(食文化)

6 指導計画

- (1) 事前 生活習慣アンケート、および、日本の自給率や食品ロスについて給食指導を行う。
- (2) 本時 食品ロスを減らす方法を考えよう。
- (3) 事後 給食指導において、給食の食べ方等から食品ロスを振り返る。

7 本時の学習

(1) 本時の目標

環境にやさしい食生活の取組を知り、自らの食品ロスを減らす方法を考えることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）等
5分	1 日本の食料自給率の低さと食品ロスの多さを確認する。	T1 日本の食料自給率は外国と比べて低いにもかかわらず、食品ロスの量が多いことを振り返らせる。	○ホワイトボード ○ワークシート ○ホワイトボード ○ワークシート 【思考・判断・実践】 自らの食品ロスを減らす方法を考えている。
	食品ロスを減らす方法を考えよう		
10分	2 食品ロスが生じる理由について考える。	T1 国内で食品ロスが生じる理由について考え、発表させる。	
10分	3 食品ロス削減の取組について知る。	T2 食品ロス削減活動について説明し、本町のゼロウェイストとの共通点に気付かせる。 ●おいしい食べきり運動（Reduce） ●フードバンク活動（Reuse） ●フードリサイクル（Recycle）	
10分	4 食品ロスの削減や利用方法を考え、話し合う。	T1 社会全体で取り組んでほしいこと、取り組むべきだと思うことを話し合わせる。 T2 給食の残食を取り上げ、学校や家庭で自分ができることを考えさせる。	
10分	5 自分で実現可能な食品ロス削減の方法をまとめる。	T1 友だちの発表や資料から本町のゼロウェイストを応用すると食品ロス削減ができることに気付かせ、食品ロスを減らす食生活を意欲付ける。	

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	食品ロスが生まれる原因を友達の意見や資料、過去の学習等から総合的に判断し、自分にできる食品ロス削減方法を考え、実践しようとしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	個人の独善的な考えが食品ロスを増やしていることに気付かせ、町内のゼロウェイストや食品ロス削減の取組を参考に、自分でできる方法を考えさせる。

8 他教科との関連

第5学年 社会科「食料生産を支える人々」

第6学年 家庭科「めざそう買い物名人」（東京書籍）

9 板書記録



10 ワークシート

ワークシート (10/19)

氏名 ()

日本の () は低いが、
一方で、() は多い。

食品ロスがどうしてできるのか考えてみよう。

()

食品ロスを減らす方法を考えてみよう。

()